



中高生とともに差別と闘う

『おわりのときを迎えて』

吉成タダシ



若手教員の語りから

前号紹介した、若手教員と取り組んだ在日コリアン問題についての学年全体人権学習。子ども達がどんな感想文を吐露してきたのか、どうぞご覧ください。

「私の好きな韓国のアイドルが日本に来たとき、日本の大人に、『出て行け、来るな』と言われているのを何度か聞いたし、見ました。それは私達ファンにとってもものすごくつらいことでした。先生の話を聞いて、『それなら日本が悪いんじゃないか』と思いました。やっぱりこういう問題について日本人、韓国人として学んでおかないといけないと心から思いました。だから、私たちが今学べていること、本当にありがたいことだと思いました。(Yさん)」

「今日の集会の中で一番心に残っているのは、韓国の話です。今ではK-POPも日本で主流となっていて、中には韓国グループに日本人がいたりして、とても身近なものになっていますが、昔の韓国と日本は対立していたという過去もあります。だから今でも一部の韓国人と日本人の間では言い争いが絶えません。ネットのコメントにアイドルの殺害予告をしたりだとか。大人でもそうやって子どもみたいなことをする人達は、この世の中にいます。私は『輪』を広げていくためにも、共存できる社会をめざしたいです。(Nさん)」

B L A C K P I N K や T W I C E、防弾少年団など、K-POPファン

の中学生も結構いて、文化祭ではダンスを踊ったりしています。だけど、在日コリアンのことについてはなかなか知らなかったりします。純粹にアーティストとして見ればそれでいいのかもしれませんが、できることなら在日コリアンの問題も知っておいてほしいなと思っていました。だから今回の学習は、学年全体のみならず、K-POPファンにとっても、授業をされた若手教員にとっても、いい機会でなかったかと思っています。

おわりのときを迎えて

「私はもし知らない国や知らない世界に飛び込んだら、ドキドキやワクワクなどの思いは決まらないうちで思っています。不安で胸が張り裂けると思っています。在日コリアン問題では、私自身、K-POPや韓国が好きで、韓国語やハングル文字などを自主的に学んでいます。こういう韓国の方が日本に住んで、名前(イルム)を隠して、人にも相談できないぐらいのことを悩んでいる人がたくさんいるということを知りました。韓国の人と関わって、この問題をもっと詳しく知りたいと思いました。それと、あとこのクラスでいられる時間の短さを頭に入れたうえで、皆と更にもっと話したり、絆を深めていきたいです。(Mさん)」

この約一ヶ月後、学年は修了し、クラスはバラバラになりました。一年生時に五回、二年生時に五回の学年全体人権学習を行ってきました。ですが、この学習を通してこの

子達にいったい何を残してこられたのか――。

知識として何か残ったのか。行動を起こす力はついたのか。本当の仲間づくりにつながったのか。

分からないことだらけです。でも、感性として、気持ちのうえで、「中学時代によく人権学習したな。みんな語り合ったよな」という記憶だけでも残っていればと思います。それが、大人になったとき、親になったとき、何かの形で生きてくれればと思います。

教育の営みのなかには、短期間で結果を求められるものもあります。が、そうできないものもあります。学校で取り組んできたことがベースとなり、長い時間をかけて熟成し、大人になってようやく形として姿を見せ始めるものもあるということ。けど、そうなるかどうかは分かりません。手を離れたら、すべては子ども達の手に委ねられてしまうからです。しかしそれまでは、教員が総力を挙げて、あの手この手で、子ども達に打ち込み続けていくことです。すぐには結果の出ない、まどろっこしい、息の長い営みではあります。ですが、それでも、「どうしても伝えておきたい大切なこと」として、迫り続けることだと思っています。

「人の気持ちは、どんなに考えても分からないと思います。でもたぶん、みんなが言っていることはそういうのじゃなくて、絶対に分からないことでも、分からないなりに、

しっかり考えることが一番大切なことなんだと私は思いました。なのでこれから私は、人の心が読めるエスパーみたいな人になんじやなくて、読めないなりに深く考え、相手のことを思うことができる人になりたいと思っています。(Uさん)」

「今の組の仲間と一緒に人権集会をするのは最後だったけど、悲しいとは思いますが、やり切った、やり終えられたという達成感みたいなものはわきました。自分が知らなかったこと、いろんな人の考え方、伝え合う喜びなどを得ることができ、とてもとてもうれしかったです。ただすべてを知ったわけではないし、経験もまだまだですが、次の学年で今の自分を越えられる強い自分をめざしたいです。(Oさん)」

「今回で二年生としての人権集会は最後でした。私にとって人権集会は本当に大切で、すてきな場です。みんなの心に秘めている思いが聞けたり、自分の意見を発することができて、本当に大事だと思っています。『人を想う』ということについて話し合うことになったとき、私は何だか原点に還ったような気がしました。最後に、生徒のクラスに対する想いや先生方の想いなどを聞いて、この学年はすこいなぁと思っていました。三年生になってどれだけこういう機会があるかは分からないけれど、この学年のメンバーでまた話せるといういなあと思います。(Hさん)」

この春、子ども達は三年生に進級しました。そして幸せなことに私も、持ちあがることとなりました。